

変わりゆく環境 -子どもからの生活-

話し手 島田 旭

聞き手 橋本 慎也 内田 拓弥

(埼玉県立松山高等学校映像制作部)

子供のころの環境

生まれたのはここだね。下里の自宅です。家族は5人で、息子は1人です。子供のころは、よく山に入ってたよ。山には動物がいたね。山兔がいたよ。首にひっかかるように罟を張って取ったよ。それでね、この兔を当時は食べたんだよね。昔は農家の内じゃ買うと高くてね。今みたいに肉のレシピについて詳しく知らなかったから煮るくらいしかしなかった。うどんや何かに特別に入れた。

今とちがって昔の飯は米の飯と麦の飯を食べるのが普通。毎日、麦と白米を交ぜて。米は金にしなくちゃならないか。麦を使ってうどんなんかも食べたね。

小川町には槻川って川があるでしょ。川に入って魚を取ったよ。今と違って川がもつときれいだったからね。ドジョウやフナがたくさんいたよ。

おこずかいはお祭りの時に1銭か2銭、親がくれてね。ここらへんにね、今のスーパーの100分の1も無いような小さい店があったんだ。そこで飴玉を買って食べていたね。

戦争の体験

僕は戦争で兵として出兵したんだよ。通信兵ってやつだね。電信とかモールスとかをやった。軍隊入ってすぐ、モールスを習ったんだよ。通信教育隊ってのが専門であって、これがまいったね。何しろ頭でモールスを覚えなきゃならないからね。神経をとがらせる仕事だよ。幾人か神経衰弱になってたよ。

今の中国の「瀋陽」とか「ハルビン」、南朝鮮の「大田(てじょん)」で終戦だった。1年半で中国の半分くらい回っちゃった。あと朝鮮も半分くらい。でもおっかないってことは無かったなあ。瀋陽にいた時は「東方大学」の物置で、「ハルビン」では、「牡丹江(ぼたんこう)」行って、山の中で仮小屋を作って、朝鮮では日本人学校で寝泊まりしていたね。

通信兵の朝は早くてね。朝6時起床だったかな。夜の点呼は9時で。でも、その時間より早く起きて勉強しなくちゃだし。夜遅くに偉い兵隊にいじめられて、ビンタされたこともありましたよ。

戦争が終わって、22歳で家に帰ってきたとき家族全員いたよ。あの時のことはよく覚えるよ。10月の20日だけ夜一人でポコポコ小川の駅から歩いてきたんだから。

移り行く農業

家は昔から農業をやっているんだ。俺が生まれる前からね。昔は今と違って道路がアスファルトじゃなかった。耕地整理する前は小さい細かい道がたくさんあった。機械が使われるようになったのは耕地整理の後からだね。機械を使う前は「万能」や「唐鎌」っていう畑を掘る道具を使っていたね。後は手作業だね。牛や馬の力を借りたりすることもあった。夏は稲を育てて冬は大豆を育てた。稲は一家庭100平方メートルくらい360~400*。2*獲れた。家によってちがうのですよ。良い泥と悪い泥があるからね。

子供のころから良く親の手伝いをしてたよ。兄弟がいたから子守りとかね。夏の暑い日は団扇で扇いだり、冬の寒い日は半纏を使っておぶったり。親の農業のやり方を見ていただけなのに、自然に覚えていたね。



唐鎌の説明をしている島田旭さん

(取材日 平成26年7月30日)

PROFILE

島田 旭 しまだ あきら

大正12年11月2日生・91歳

下里の自宅生まれ。五人家族。兄弟の長男。

●取材を終えての感想●

島田旭さんはとても優しい人でした。質問に対して昔のことを思い出しながら一つ一つ丁寧に答えてくれました。おかげで、今と昔の変化の違いがはっきりわかりました。

インタビューなんて初めてしました。とても良い経験になりました。この経験を生かしてスムーズにインタビュー出来るようになりたいです。